

2016年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

基準1 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 学部の理念・目的は適切に設定されているか						
a ◎学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること。 ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること。 【約500字】	①学部の理念を定め、「総合数理学部 2017年度 教育・研究に関する年度計画書」(2016年9月作成)(169頁)及び「2017年度総合数理学部便覧」(9頁)「1 理念・目的」に掲載している。 ②学科ごとに目的を定め、「人材養成その他の教育研究上の目的」として学則別表9に規定している。					
(2) 学部の理念・目的が、大学構成員(教職員及び学生)に周知され、社会に公表されているか						
a ◎公的な刊行物、WEBサイト等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること。 【約150字】	①総合数理学部の理念・目的は、毎年度初回の教授会で確認しており、本学部教職員に周知されている。学生へは、学部便覧に掲載し周知している。また、学部必修科目の「総合数理概論」において、現代技術の背景にある数理学・情報技術の役割をテーマとして各学科教員がオムニバス形式で授業を実施し、理念の浸透を図っている。 ②学則別表9「人材養成その他の教育研究上の目的」は、明治大学ホームページに公開しており、受験生を含む、社会一般に公表している。なお、理念・目的をより分かりやすく伝えるため、学部紹介動画や教員の研究テーマに関連するコラムをホームページに掲載している。また、2016年度は企業向けのパンフレットを作成し、学部の理念・目的の周知を図った。					
b ●人材養成の目的の認知状況を確認していること。 【約200字】	2016年度は、人材養成の目的の認知状況の調査を行っていない。2015年度に実施した「大学における学びに関するアンケート」では、総合数理学部の「人材養成その他の教育研究上の目的」の認知度は76%であった。全学の中でも高い比率であり、おおむね理解されていた。理念を知ることとなった機会や媒体については、ガイドブックや本学ホームページという回答が52%と最も高かった。	理念の認知度は高い。更なる周知を図るために、広報委員会で、効果的な広報戦略について検討する。		学部パンフレットの英語版を作成するとともに、ホームページの充実を図り、国内外に向けて学部の教育研究活動を発信する。		
(3) 学部の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか						
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	①「教育・研究に関する長期・中期計画書」は、将来構想委員会及び執行部が責任主体となって作成しており、見直しについても、同委員会で行う。2017年6月8日に委員会を開催し、長期・中期計画書の策定にあたり、今後も学部理念に沿った教育研究を行っていくことを確認した。また、学部の理念を実現し、更なる発展を目指すために、社会に求められる研究分野の強化を図るとともに、グローバルな人材育成に向けた施策を検討することとした。 ②「人材養成その他の教育研究上の目的」は、年度計画策定時に合わせて、将来構想委員会及び学部執行部が検証し、改正が必要な場合には、学部教授会で審議承認する。	完成年度を迎え、理念・目的の確認を行った。一期生となる卒業生の進路実績からは、理念・目的が適切であり、効果的な教育研究活動が行われているといえる。今後は学部を更に発展させるための施策を検討することとした。		統計関係の新学科設置及びイングリッシュトラックを検討する委員会を設置し、構想を具体化する。		

2016年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

基準3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(1) 学部として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか						
a ●<教員像と教員組織の編制方針> 専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等、大学として求められる教員像を明らかにしたうえで、当該大学、学部・研究科の理念・目的を実現するために、学部・研究科ごとに教員組織の編制方針を定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約400字】	① 求める教員像は、「総合数理学部 2017年度教育・研究に関する年度計画書」(2016年9月)(171頁)「3教員・教員組織」において掲載している。 ② 教員組織の編制方針は、「総合数理学部 2016年度教育・研究に関する年度計画書」(2016年9月)(171頁)「3教員・教員組織」において掲載している。 ③ 学部の「求める教員像」及び「教員組織の編制方針」を明記した「教育・研究に関する長中期計画書」を教授会で承認することにより、本学部教職員で共有している。					
b ◎<基準の明文化、教員に求める能力や資質の明示> 採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていること。 【約150字】	① 専任教員の任用・昇格に関しては、明治大学教員任用規程等の大学の定める規定に則り、学部で定めた「総合数理学部における教員等の任用および昇格に関する内規」および「総合数理学部における助手の任用及び制度の運用等に関する内規」により明確に規定している。 ② 内規には、任用審査の指針を第2条に、資格について第8条から16条に明記している。					
c ◎<組織的な連携体制と責任の所在> 組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていること。 【約300字】	教育研究事項にかかわる全ての意思決定は、専任教員が構成員となっている学部教授会において行う。その他に、学部内の管理運営を円滑に行うことを目的として、執行部会議、学科会議を設けている。本学部は研究対象学問分野に基づき3学科により組織を編制しているが、学科会議には専門科目を主たる担当とする専任教員以外に、総合教育科目等を担当する専任教員が参加し、連携を図っている。各学科の教学委員は、学科長の下で教学関係調整事項における合意形成をとる形態をとっている。また、学部の教育研究にかかわる各種検討事項を扱う常設委員会を設置している。各委員会で検討されたことは、学科会議、執行部会議を経て、学部長が議長を務める教授会で審議し、最終決定することとしており、責任体制は明確である。					

2016年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

基準3 教員・教員組織

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
		(2) 学部の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか				
教員の編制方針に沿った教員組織の整備						
a ◎当該大学・学部・研究科の専任教員数が、法令（大学設置基準等）によって定められた必要数を満たしていること。特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していること（設置基準第7条第3項） 【約400字】 ※ 現在数とは、2017年5月1日現在の数値です。	大学設置基準上の必要教員数は、現象数理学科8名、先端メディアサイエンス学科9名、ネットワークデザイン学科14名であり、これに対して、16名、17名、16名が在籍し、基準を充足している。					
	大学設置基準上の必要教授数は、現象数理学科4名、先端メディアサイエンス学科5名、ネットワークデザイン学科7名であり、これに対して5名、7名、8名が在籍し、基準を充足している。					
	専任教員一人当たりの学生数は、学生現員を基礎として22.6名、収容定員を基礎として21.2名である。					
b ◎『教員組織の編制方針』と教員組織の編制実態は整合性がとれているか。 【600～800字】	2017年度の担当授業時間数の平均は資格別で教授17.3時間、准教授16.7時間、講師10.4時間、助教6.0となっており、全学部平均よりもその値は高い。		教員の研究時間の確保や教育の質の維持の観点、学部規模及び学際的な学問領域であることを鑑みると、現状の教員数には不足がある。		将来構想委員会において、中長期計画の策定と共に重点化する教育研究分野についても検討を行う。検討結果を元に、学部執行部において、専任教員の任用を計画、要望する。	学部の将来構想に依りて、計画的に教員組織を整備していく。特に、統計関係の新学科設置を実現するための教員任用が必要である。
	2017年度の学部開設科目総数に占める専任教員の担当科目の比率（専兼比率）は、開講科目の71%を専任教員が、29%を兼任教員が担当している。特に、必修科目は専任教員担当比率が高く、総合教育科目において兼任講師による多様な講義が行われている。					

2016年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

基準3 教員・教員組織

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
				(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述	
教員組織を検証する仕組みの整備						
c ●教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【600～800字】	本学部は、学部設置の理念・趣旨に基づき、2012年に専任教員の任用計画を策定し、2016年度まではその設置計画を履行した。教員の任用については、学部の将来構想や必要な授業科目の検証と合わせて、補充・増員すべき教員の主要科目、資格の検証を、学科会議、執行部会議及び教授会で行うこととしている。					
(3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか						
a ●<規定に沿った教員人事の実施> 教員の募集・採用・昇格について、基準、手続を明文化し、その適切性・透明性を担保するよう、取り組んでいるか。 【400字】	① 任用及び昇格は、大学で定める諸規程を踏まえて、「総合数理学部における教員等の任用および昇格に関する内規」に従って適切に運用している。 ② 2016年度は、退任に伴う補充（現象数理学科1名）及び助教2名の任用、専任教員4名（准教授から教授1名、講師から准教授3名）の昇格を行った。					

2016年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

基準3 教員・教員組織

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
(4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか					
教員の教育研究活動等の評価の実施					
a ●教員の教育研究活動の業績を適切に評価し、教育・研究活動の活性化に努めているか。 【400字】	① 記載事項なし ② 研究活動の業績評価に関わる事項として、2015年度から研究報告書の発行を行っている。研究報告書には、学部主管予算から投稿料等の補助を受けた論文及び各専任教員の業績（著書・論文、学会発表及び研究課題）を一覧で掲載している。投稿料等の補助は、研究促進の一環として取り組み始めたもので、2016年度は7件の申請があった。研究に関わる事項を検討する研究委員会では、こうした制度の検討の他、各学科の研究活動について情報を共有し、学部の研究活動の活性化を図っている。研究委員会における学部の研究活動の情報は、各学科所属の委員が学科会議において報告し、周知している。また、学科を越えた研究活動促進のため、理科設備費の中にプロジェクト研究予算枠を設け、運用内規を作成した。 ③ 総合的な業績評価として、ホームページにおいて教育・研究活動を適宜更新するなど、学内外に教員の教育・研究活動の情報発信を行っている。特に学外における教員の表彰等は、教授会で報告するとともに、総合数理学部のホームページに迅速に掲載し広報の充実を図っている。 ④ 総合数理学部所属教員の研究費関係のデータについて、過去3年間、研究費の総額は増加している（表58）。内訳については、学内共同研究費と科学研究費補助金額に大幅な増加が見られる。科学研究費の採択は、2016年度は14件が採択されている。2014年度7件、2015年度9件と採択件数を伸ばしている。	競争的外部資金の獲得に積極的である。投稿料助成の実施や研究報告書の発行など、研究促進を図る取り組みを行っている。報告書掲載の研究については、教授会員を対象に研究発表の機会を設けており、情報共有と意識付けに有効である。		学部・学科の枠を越えた教員相互の研究交流会を実施し、学科横断プロジェクト研究の推進を促す。	
教員の資質向上のための研修・諸活動（FD）の実施状況とその有効性					
b ●教育研究、その他の諸活動（※）に関する教員の資質向上を図るための研修等を恒常的かつ適切に行っているか。 ※ 社会貢献、管理業務などを含む『教員』の資質向上のための活動を指します。 ※ 『授業』の改善を意図した取り組みについては、「基準4」（3）教育方法で評価する。 【600～800字】	○教育や学生指導に関わる資質 ・学生相談員による相談状況の報告 ・授業改善アンケート結果の見方や活用方法についての講演会開催（2016年9月29日、35名出席）				

2016年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 1. 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか						
a ◎理念・目的を踏まえ、学部・研究科ごとに、課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件・修了要件）等を明確にした学位授与方針を設定していること。 【約800字】	① 教育目標として学則別表9に「人材養成その他の教育研究上の目的」を定めている。 ② 学位授与方針について、4年間の教育課程を通して学生が身に付けるべき知識や技能・態度を明確にした到達目標と、そのための諸要件に分けて定めている。					
(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか						
a ◎学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を、学部・研究科ごとに設定していること。 【約600字】	学位授与方針に示した修得すべき成果を達成するため、教育課程の編成理念、教育課程の編成方針を明らかにした「教育課程編成・実施方針」を定めている。					

2016年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 1. 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(3) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が, 大学構成員(教職員及び学生等)に周知され, 社会に公表されているか						
a ◎公的な刊行物, WEBサイト等によって, 教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること。 【約150字】	① 教職員については「総合数理学部便覧」(9~12頁)で公開している。 ② 学生についても「総合数理学部便覧」(9~12頁)で公開している。 ③ 社会一般への公表は, 学部ホームページにおいて教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針を掲載している。ホームページは方針とあわせて詳細項目が公開されており, 利用者が情報を把握しやすいように作成している。					
b ●教育目標, 学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の認知状況を確認していること。 【約200字】	学部の3つのポリシーの認知度について, 2016年度は調査を実施していない。2015年度明治大学「明治大学における学びに関するアンケート」では, 調査学生のうち, 38%が「知っている」「だいたい知っている」と回答した。3つのポリシーを知った資料として, 「WEBサイト」が38%と設問項目の中で1番高かった。					
(4) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか						
a ●教育目標, 学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するにあたり, 責任主体・組織, 権限, 手続を明確にしているか。また, その検証プロセスを適切に機能させ, 改善につなげているか。 【約400字】	本学部の教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針は, 教授会の下に設置している執行部会及び教学委員会において, 適切性について検証を行う体制をとっている。2016年度は, 2017年度からのカリキュラム改変に伴い, 教育課程の編成・実施方針についても検証を行い, カリキュラムの構成や特長にかかわる文章の一部を修正し, 2016年12月22日の教授会で審議, 承認した。	2016年度は学部完成年度を迎えることに伴う大きなカリキュラム改変が行われた。教学委員会を中心に, 学生の修学状況を踏まえ, より良い教育効果を得られる改正が行われたことから, 検証の機会が設けられており, 適切に機能しているといえる。		学部の理念を実現する教育目標等であるか, 執行部会議及び教学委員会において, 組織的かつ恒常的に検証を行う。		

2016年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	G列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 教育課程の編成方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか					
必要な授業科目の開設状況					
a ◎CPに基づき、必要な授業科目を開設していること。 【300字程度】	①「社会に貢献する数理科学の創造・展開・発信」という理念のもと、現象数理学科、先端メディアサイエンス学科、ネットワークデザイン学科を組織している。数理と情報を軸に、学生の知的好奇心を高めるとともに、論理的・科学的思考力、柔軟な応用力・創造力を育むことを狙いとしてカリキュラムを編成している。 ② 2016年度における総開設科目数は、合計220科目である。内訳は、学科共通科目75科目、現象数理学科の専門教育科目47科目、先端メディアサイエンス学科の専門教育科目47科目、ネットワークデザイン学科の専門教育科目51科目である。				
b ●CPに基づき、必修科目を開設していること。 【200字～400字程度】	数理と情報についての先端的知識と技術をもって現代社会の諸問題に対処し、国際的に活躍できる人材を養成する。 学部共通の必修科目には、英語及び数学と情報の基礎科目、ゼミと卒業研究の演習・研究科目がある。英語は専門分野の内容に関する発信力を高めるため、3年次までの必修としている。演習・研究科目では、専攻テーマについて分析、体系化し、表現する力を養うことを狙いとしている。 現象数理学科の必修科目には「現象のモデリングとシミュレーション」「現象と数学」等がある。現象数理学の基本であるモデリング、シミュレーション、数理解析を総合的に学ぶことを目的としている。 先端メディアサイエンス学科の必修科目には、「メディア基礎実験」「エンタテインメントプログラミング演習」「基本情報技術」等がある。情報処理の基本技能となるプログラム作成を学ぶとともに、情報技術者として必要な知識を得ることを目的としている。 ネットワークデザイン学科の必修科目には、「エネルギーネットワーク基礎」「情報ネットワーク基礎」「データ分析基礎」等がある。ネットワークを構成する要素技術を理解する力と、コンピュータを駆使してネットワークを解析、設計、制御する力を養う。				
c ◎幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていること。 【200字～400字程度】	① 開設科目における教養科目の割合は23%である。総合教育科目区分内に幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する科目を設置している。卒業要件単位数に占める教養系科目の必要単位数は124単位中18単位を修得すべき最低単位としており、その割合は15%である。 ② 教養教育は人文学系、社会科学系、自然科学系、複数分野にまたがる学生系科目を開講し、専門に偏らない教養人としての資質を養い豊かな人間性を育むことを目的としている。				

2016年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画	
	G列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
順次性のある授業科目の体系的配置（履修体系図やコース系統図の明示、科目相関図、4年間の履修モデル、適切な科目区分など）					
d ●教育課程の編成実施方針に基づいた教育課程や教育内容の適切性を明確に示しているか。（学生の順次的・体系的な履修への配慮） 【約400字】	学生への順次的・体系的な履修への配慮として、カリキュラム体系表を学部便覧（29, 35, 41頁）に学科ごとに明記している。教育課程は大きく総合教育科目、基礎教育科目、専門教育科目の3つに区分され、基礎から専門へと順を追って学べるよう、授業科目を配置している。 1年次は主に総合教育科目及び基礎教育科目を履修する。2年次以降の学習の中心は、学科別に設置された専門教育科目である。専門教育科目は、その目的に応じていくつかに区分し、当該区分内の科目の構成や目的を、学生が理解しやすいように「便覧」に明示している。1・2年次の学びを通して基礎力を身につけ、3年次からは研究室に所属し、専門性を深めていく。3・4年次配当の専門教育科目のうち、必修は主に演習・研究科目となる。なお、基礎から専門へと段階的に知識を積み上げていく一方、総合教育科目の配当年次を1年次から4年次にわたり設定し、専門科目と並行して履修することで視野を広げることを狙っている。 学生には、4月に実施している各学年のガイダンス時に科目の体系性を説明している。また、履修登録のエラー状況や窓口での質問内容などから、学生は履修制度の概要は理解しているように見受けられる。				
教育課程の適切性の検証プロセスの明確化とその有効性					
e ●教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】	① 教育課程の適切性の検証は、次年度の授業計画策定時（例年9月から実施）に、学科会議での検討結果を踏まえ、教学委員会において行っている。 ② 2016年度は、完成年度を迎えたことに伴い、カリキュラムの適切性について検証を行い、2017年度から施行する新カリキュラムを策定した。総合教育科目について、留学生対象の日本語科目を設置するとともに、教養科目を7科目追加開講し、専門教育科目についても学生の修学状況を鑑みて一部の科目で変更を行った。 ③2015年度実施の「大学における学びに関するアンケート」では、授業科目の体系について、70%が満足、どちらかといえば満足であると回答した。また、大学で学びたいと思ったことを学んでいるかという設問について、78%が十分学べている、ある程度学べているという回答をした。	完成年度を迎え、学生の修学状況を基に、2017年4月からカリキュラムの一部を変更した。カリキュラムを検証する機会は設けられており、適切に機能している。		学科会議及び教学委員会において修学状況を把握し、教育目標に沿ったカリキュラムであるか、組織的かつ恒常的に検証を行う。	

2016年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 G列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか					
特色ある教育プログラムの内容とその効果（当該学部等固有のプログラムやGP採択事業など）					
a ●学部の特徴、長所となるプログラムが編成されているか。 【200字～400字程度】	○英語教育 専門分野の内容についてリサーチを行い、英語でその結果の考察を行えることを目標としている。3年次まで英語を必修とし、3年次には個人のプレゼンテーション、グループでのポスターセッションに焦点を絞って演習を行っている。 ○演習・研究科目 演習・研究科目を1年次から配置し、全学生必修としている。1年次は学部が対象とする学問領域の理解をはじめ、情報の調べ方やレポートの書き方など、大学生としての学びの基礎を学んでいる。3・4年次で取り組む研究では、専攻テーマについて、分析、体系化し、表現する力を養っている。 ○情報科目 プログラミング演習を全学生必修とし、各学科専門教育に有機的な繋がりをもたせた講義を行っている。学生が作成したプログラミングを発表するなどの取り組みをしている学科もあり、知識・技術の確実な習得を図る一助となっている。		演習・研究科目及び情報科目は、いずれも教育課程において重要な位置づけをしめる。中野キャンパスの現状は、教室、情報教室、実験室が不足し、面積も狭隘であることから、教育環境の維持・向上に向けて改善が必要である。		第2期整備が完了するまでの期間、各授業科目を適切に実施できる方策を検討する。 中野キャンパス第2期整備計画の早期実現を要望する。
学部間等における国際的な教育交流の内容とその効果（学部間協定、短期海外交流など）					
b ●学部の特徴、長所となる国際化プログラムが編成されているか。 【200字～400字程度】	(記載事項なし)				

2016年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
(1) 教育方法及び学習方法は適切か					
教育目標や教育課程の編成・実施方針と授業形態（講義科目、演習科目、実験実習科目、校外学習科目等）との整合性					
a ◎当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること。 【約200字】	① 総合数理学部の科目は、「講義科目」を中心としているが、科目の特性に合わせて、演習及び実習形式も取り入れている。 ② 専門教育科目区分における必修科目「演習・研究科目」は全て少人数による演習形式の授業を行っている。これは、導入教育から大学生活の集大成となる卒業研究指導までを行う全学生にとっての必修科目であり、学部教育にとって重要な役割を担っている。また、基礎教育科目区分における「微積分」や「線形代数」においても、学んだ理論について理解を深めることを目的として演習形式の授業を行っている。 ③ 学部共通の必修科目である「プログラミング演習」や各学科の専門教育科目区分に配置されている科目の一部では、コンピュータを用いた実習を行う。これにより、基礎的な知識及び技術の確実な習得を図っている。				
履修科目登録の上限設定、学習指導・履修指導（個別面談、学習状況の実態調査、学習ポートフォリオの活用等）の工夫					
b ◎1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置が取られていること。(学部) 【約200字】	① 1年間の履修科目登録(卒業要件単位として履修する科目)の上限は、カリキュラム年度により異なる。旧カリキュラムは1年次46単位、2年次49単位、3年次46単位、4年次42単位である。新カリキュラムは1年次49単位、2年次49単位、3年次46単位、4年次42単位である。 ② 各年次の平均履修単位数は、1年次46単位、2年次43単位、3年次36単位、4年次16単位である。 ③ 3年次への進級にあたり、2年次終了までに卒業に必要な科目から60単位以上を修得すること及び各学科の必修科目の修得条件(現象数理学科は46単位中28単位以上、先端メディアサイエンス学科は演習・研究の8単位中6単位以上、ネットワークデザイン学科は52単位中32単位以上)を定めている。				
c ●履修指導(ガイダンス等)や学習指導(オフィスアワーなど)の工夫について、また学習状況の実態調査の実施や学習ポートフォリオの活用等による学習実態の把握について工夫しているか。 【約200字~400字】	① 履修ガイダンスは、授業が開始される前の学習指導週間を利用して、各学年・学科ごとに実施している。新入生に対しては、履修指導の他、施設利用や学生生活全般についてのガイダンスも行っている。職員と教員がそれぞれ説明を行い、履修手続から学習内容に関する事項を含めた説明を行っている。 ② オフィスアワーは実施していないが、全専任教員がゼミを担当し、また、実験室と研究室が隣接していることから、相談がしやすい環境である。 ③ 授業の出席等は個々の教員に委ねられており、学習ポートフォリオ等を活用した組織的な学習実態の把握は行っていない。 ④ 履修指導やガイダンスへの満足度について、2016年度は調査を実施していない。2015年度に行った「明治大学における学びに関するアンケート」設問17では、ガイダンスや履修指導の満足度に対する肯定的意見が72%であった。				

2016年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
学生の主体的参加を促す授業方法（学習支援、TAの採用、授業方法の工夫等）						
d ●各授業科目において、学生の主体的な学びを促す教育（授業及び授業時間外の学習）方法を採用しているか。 【約400字】	○TAを配置した科目 ・情報科目 授業内に教員の他に複数のTAを配置し、パソコンの操作方法などの疑問をその場で解決出来る環境を整えている。 ・微積分、線形代数などの数学関係の必修科目 複数のTAを配置し、演習問題の解法などの質問に対応することで、学生個人の理解度に合わせた授業を行っている。 ○3年次の必修科目である「EnglishⅢ」 自分の専門分野の内容に関してリサーチを行い、英語でその考察を行うことを目指している。春学期は個人のプレゼンテーション、 秋学期はグループでのポスターセッションに焦点を絞って演習を行っている。 ○現象数理学科（実験数学教育） 3年次配当の「実験数学教育」では、数学の教員として数理探究の指導が行えるよう、少人数のグループに分かれて実検と工作を伴った授業の方法を学ぶ。また、授業のまとめとして、附属高生に対して模擬授業を行っている。 ○現象数理学科（自主的な勉強会） 正課授業外で学生自らがテーマを決め、それに興味をもつ複数の学生が集まり、疑問等が生じた場合は関係する教員にアドバイスを求めることができる取り組みを行っている。 ○先端メディアサイエンス学科 ・1年次の必修科目である「プログラミング演習」において、学生をチームに分けて自ら課題を設定してそれを解決するプログラム作成を行うPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）を実施している。 ・少人数ゼミナールを通じて指導教員の研究に参加することが可能であり、学会での研究発表による受賞（情報処理学会・学生奨励賞、DICOM2016・優秀論文賞、ゲームプログラミングワークショップ・ベストポスター賞）などの成果として表れている。 ○ネットワークデザイン学科 1年次配当科目として開講している「フィールドスタディ」では、少人数セミナーでの事前学習後に企業見学を行い、得られた知見を発表形式で共有している。2016年度は49人が履修した。	学生の主体的な学習が、学会での受賞などの成果として表れている。2016年度は15件の受賞を学部ホームページにて公表した。		学科会議及び教学委員会において、学生の主体的学習を促進する仕組みを検討し、授業やカリキュラムの改善につなげる。		

2016年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか					
a ◎授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること。 【約300字】	① シラバスの記載項目は全学部統一様式となっている。総合数理学部開設科目に関して、関係する全教員にシラバスの作成依頼をしている。 ② シラバスは冊子配布しておらず、大学ホームページ及び「Oh-o!Meiji」システムからオンライン閲覧できるように整えている。なお、シラバスの内容に変更がある場合には、初回授業で連絡および掲示することとしている。				
b ●シラバスと授業方法・内容は整合しているか(整合性、シラバスの到達目標の達成度の調査、学習実態の把握)。 【約400字】	シラバスの到達目標の達成度について、授業改善アンケートの「シラバスに示されていた学習目標、内容と合致していましたか」の項目を通じて調査している。これらの項目についての数値は、2016年度のアンケート集計では、「思う(強)」から「思わない(強)」の5段階評価で、春学期は「思う(強)38.1%」「思う(弱)27%」「ふつう31.6%」「思わない(弱)1.9%」「思わない(強)0.9%」、秋学期は「思う(強)40.3%」「思う(弱)26.4%」「ふつう29.5%」「思わない(弱)2%」「思わない(強)1.3%」という結果であった。これらの数値から、シラバスに基づいた授業展開がなされていることが伺える。				
c ●単位制の趣旨に照らし、学生の学修が行われるシラバスとなるよう、また、シラバスに基づいた授業を展開するため、明確な責任体制のもと、恒常的にかつ適切に検証を行い、改善につなげているか。 【約400字】	① シラバスの記載内容について、教学委員会で授業計画を検討した後、学科会議でカリキュラムの方針等を共有し、記載については教員個人が行っている。 ② 授業改善アンケートの結果について、組織的な検証は行っていない。 ③ 2015年に実施した「大学における学びに関するアンケート」の「1週間の授業外学習時間」の設問に対して、1時間未満が12%、1時間～5時間程度が64%、6時間以上が18%であり、傾向はあるものの、学生によってかける時間に差があった。また、「科目の予習・復習を行う時」にシラバスを参照する学生は36%であり、科目の予習・復習は授業内及びOh-o! Meijiポータルを利用して伝えられている。この点から、シラバスを通じた事前・事後学習の指示は不明瞭であると言える。また、多くの学生が、履修科目の選択及び成績評価方法の確認を目的としてシラバスを参考にしていることが伺える。				

2016年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか					
a ◎授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること。(成績基準の明示、(研究科)修士・博士学位請求論文の審査体制) 【約200字】	① 成績評価についてはGPA制度を導入しており、基準については便覧(26頁)に明記している。 ② 成績分布に関しては、 1年生の学部の平均GPA: 2.70 現象数理学科2.49 先端メディアサイエンス学科2.86 ネットワークデザイン学科2.71 2年生は学部平均GPA: 2.34 現象数理学科2.05 先端メディアサイエンス学科2.58 ネットワークデザイン学科2.35 3年生は学部平均GPA: 2.50 現象数理学科2.27 先端メディアサイエンス学科2.73 ネットワークデザイン学科2.44 4年生は学部平均GPA: 2.57 現象数理学科2.39 先端メディアサイエンス学科2.65 ネットワークデザイン学科2.69 となっている。科目や学科間のばらつきについては、組織的な確認を行うには至っていない。				

2016年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善(授業に関わるFD活動)に結びつけているか						
a ◎教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること。 【約400字】	○全教員対象「FD講演会」, 35名, 全学のFD委員会へ講師を依頼した。副教務部長が全学のFDの取り組みについて、株式会社教育ソフトウェアの担当者が授業改善のためのアンケート集計結果の見方について、講演を行った。	授業改善アンケートの実施を促し、効果を高めることを目的とした研修会を実施した。アンケート結果の見方について講演を行った他、活用方法等について質疑応答が行われた。2016年度は、半数以上の教員が授業アンケートを実施している。		アンケートの実施率を高めるとともに、学部が求めるFD活動を具体化し、必要に応じて教育開発・支援センターとの連携を図る。		
b ●授業アンケートを活用して教育課程や教育内容・方法を改善しているか。 【約400字】	教育開発・支援センターが行う授業改善アンケートについて、教員自身がその目的や活用方法理解する必要があることから、全教員を対象として、FD講演会を実施、アンケート結果の見方や活用例について研修を行った。研修においては、参加教員に対して授業改善アンケートの実施を促した。 ＜2016年度アンケート実績＞ 春学期実施率60.9% (教授65%, 准教授57.9%, 講師57.1%) 秋学期実施率66% (教授52.4%, 准教授75%, 講師77.8%)					
c ●教育内容・方法等の改善を図るための責任主体・組織、権限、手続プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】	① 教育内容・方法等の改善検討は、教学委員会(教務主任2名, 一般教育主任1名, 各学科の教学委員各2名の構成)を常設委員会として設けて検討している。 ② 2016年度は9回の委員会を開催し、2017年度施行の新カリキュラムについて、科目区分や設置科目、卒業要件等の見直しを行った。検討の結果、留学生に対応した日本語科目の設置や総合教育科目の科目追加、専門教育科目の一部変更を決定し、教授会で承認した。 ③ 「明治大学における学びに関するアンケート」では、授業形態・方法の満足度を調査しており、総合数理学部は、少人数によるゼミナールや演習に対する肯定的意見が90%と高く、次いで教室での講義が80%であった。	カリキュラムについて、単位の修得状況や教員ごとの担当科目における学習状況を学科会議及び教学委員会で共有・検証し、カリキュラムの改正を行った。検証の機会は設けられており、適切に機能しているといえる。		検証結果に基づき、教育効果を高めるカリキュラム変更を行うとともに、恒常的に検証を行う。		

2016年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか					
b ●学位授与にあたって重要な科目(基礎的・専門的知識を総合的に活かして学習の最終成果とする科目、卒業論文や演習科目など)の実施状況。 ●学習成果の「見える化」(アンケート、ポートフォリオ等)に留意しているか。 【約400字】	本学部では、ゼミナール及び4年間の学習成果を卒業研究としてまとめるための研究科目(現象数理研究, 先端メディア研究, ネットワークデザイン研究)を必修科目として開講している。 研究分野間で卒業研究として実施可能な内容に違いがあるため、取り組みは学科や研究室間で異なる。				
●学位授与率, 修業年限内卒業率の状況	2016年度の学部の学位授与率は84.1%, 現象数理学科は89.1%, 先端メディアサイエンス学科は91.8%, ネットワークデザイン学科は95.7%であった。2013年に開設以来, 初めての学位授与を行った。 また, 標準修業年限内卒業率は学部全体で84.1%であった。				
●卒業生の進路実績と教育目標(人材像)の整合性があるか。	卒業生の進路実績は学部全体で就職者252名, 進学者114名であった。現象数理学科は就職者93名, 進学者20名, 先端メディアサイエンス学科は就職者106名, 進学者58名, ネットワークデザイン学科は就職者53名, 進学者36名である。就職先の業種を学科別にみると, 現象数理学科は金融業・保険業, 情報通信業, 教育・学習支援業が同程度の割合である。金融専門職や教職に従事する者もあり, 教育目標である数学と社会をつなぐ架け橋となる人材の育成が実現されている。先端メディアサイエンス学科は情報通信業の割合が高い。システム・エンジニアとして働く者が多く, メーカー, 通信業, コンテンツ・エンタテインメント産業等業種の幅も広い。従来の理系の枠を越えた視野を有する技術者としての人材が社会に求められていることが伺える。ネットワークデザイン学科の就職先は, 情報通信業が最も多く, 次いで製造業と運輸業・郵便業である。学部で唯一工学系の学科であり, 社会基盤を支えるネットシステムの立案, 構築にかかわる教育研究を行っている。就職先からは, 大学での学びを活かした進路選択がされていることが分かる。先端メディアサイエンス学科とネットワークデザイン学科は3~4割が大学院に進学している。	2016年度卒業生が一期生となる。就職先からは, 多くの学生が大学での学びを活かした進路選択をしていることが分かる。理学, 工学の枠に捉われず, 他分野と協同しながら新しい価値創造に関わることのできる人材が社会に評価されているといえる。	卒業生の進路実績について, 就職キャリア委員会, 学科会議, 執行部が連携して, 継続して推移をみるとともに, 教育目標との整合性を確認する。		

2016年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
C ●学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）を実施しているか。 【約400字～600字】	学生の自己評価を確認するアンケート等を実施していない。		学生の自己評価を確認するアンケート等を実施していない。		執行部及び学科会議において、学生の自己評価、卒業生の評価の実施の必要性、方針を検討する。	検討結果に基づき、学生の自己評価、卒業生の評価を実施する。
●学生の自己評価を実施しているか。 【各約300字】	毎学期に実施している授業改善アンケートにおいて、学生の授業に対する達成度を2つの調査項目から図っている。「この授業で新しい知識や考え方を得ることができたか」の設問について、2016年度の調査では、思う（強）、思う（弱）、ふつうと回答した割合が、春学期は95.7%、秋学期は98.1%であった。また、「あなたのこの授業に対する自己採点は何点ですか」の設問について、S・A・Bと回答した割合が、春学期は95.7%、秋学期は97.5%であった。これらのことから主体的に授業に臨み、シラバスに定める到達目標を達成していることが見て取れる。					
	2015年に実施した「明治大学における学びに関するアンケート」では、学習成果の自己評価を調査しており、「入学して、自分自身が成長したか」の項目について、成長または少し成長した、の割合が約80%であり、大学生活を通して成長を自覚している学生が一定数いることが読み取れる。なお、同アンケートの問21について、本学部のDPに定める具体的到達目標と関連する項目である「問題点を発見し、分析する力」「論理的な思考方法・能力」「専攻分野の専門知識」「プレゼンテーションの方法・能力」「新しい物事に挑戦する力」が身についたかという設問に対しては、肯定的意見が80%以上であった。					

2016年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(2) 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか						
a ◎卒業・修了の要件を明確にし、履修要項等によってあらかじめ学生に明示していること。 ◎(研究科)学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあつては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準(学位論文審査基準)を、あらかじめ学生に明示すること。 【約200字】	進級及び卒業にかかわる要件について、総合数理学部便覧(16頁)に明示し、入学時に学生に配布している。 なお、3年次への進級要件は、2年次終了時までに卒業に必要な科目の中から60単位以上修得し、かつ、各学科が定める条件を満たすこととしている。また、卒業要件は、4か年以上在学し、かつ124単位以上を修得するほか、各学科が定める科目を修得することとしている。					
b ●学位授与にあたり、明確な責任体制のもと、明文化された手続きに従って、学位を授与しているか。 【約600字】	卒業の判定にあたっては、学則に定められた修業年限及び要件を満たした学生について、学部教授会で審議し、決定する。					

2016年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

基準5 学生の受け入れ

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか（「AP」の全文記述は不要です）					
「求める学生像」と「当該課程に入学するにあたり、習得しておくべき知識等の内容・水準」の明示 a ◎理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること。 ◎公的な刊行物、WEBサイト等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること。 【約400字】	① 総合数理学部の入学者の受入方針において、求める学生像として3点定め、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示している。また、一般選抜入学試験について、出題のねらいや学習方法のアドバイスを本学ホームページで公開している。 ② 入学者の受入方針の公表について「入学試験要項」及び明治大学ホームページにおいて公開し、受験生を含む社会に幅広く公表している。				
(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか					
a ●学生の受け入れ方針と入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。（公正かつ適切に入学者選抜を行っているか） 【約800字】	入学者の受け入れ方針に基づき、入学試験では、学力試験を課す一般入試（一般選抜、全学部統一、大学入試センター試験利用入試前期及び後期）、特別入試（自己推薦、スポーツ、外国人留学生）及び推薦入試（指定校、付属校）を実施し、多様な受験機会を設けている。また、求める学生像は、各試験形態ごとに明示している。				

2016年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

基準5 学生の受け入れ

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適切に管理しているか						
収容定員に対する在籍学生数比率の適切性						
a ◎学部・学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である。 ◎学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である。 ◎学部・学科における編入学定員に対する編入学生数比率が1.00である（学士課程）。 【約200字】	① 過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の学部平均は1.17であり、各学科の平均比率について、現象数理学科は1.19、先端メディアサイエンス学科は1.22、ネットワークデザイン学科は1.08である。現象数理学科と先端メディアサイエンス学科は定員管理に留意する必要がある。 ② 2017年度の収容定員は4学年で1,040名、在籍学生数は1,109名であり、学部の収容定員に対する在籍学生数比率は1.07である。また、各学科については、現象数理学科は1.07、先端メディアサイエンス学科は1.09、ネットワークデザイン学科は1.04であった。おおむね適切である。	入学定員超過率が、昨年度よりも改善されている。		合否判定会議担当者等を中心に、過年度の歩留まりデータ及び志願者動向を検証のうえ、合格者数を精査の上で決定し、在籍学生数を適切に管理する。		
定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応						
b ◎現状と対応状況 【約200字】	学部開設の2013年度入試において、入学者数が定員を大幅に上回ったが、歩留まりデータの分析等を行い、適正化を図ってきた。これにより、入学定員超過率及び収容定員超過率についても、適正な値に改善されている。					
(4) 学生募集及び入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか						
a ●学生の受け入れの適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【400字】	学生の受け入れ方針、入試制度及び実施に関する事項は、「入試委員会」において検討を行い、執行部会議への報告を経て、教授会で審議している。入試委員会における審議事項は各学科に報告され、入学試験形態別の募集人員や試験科目等は学科の意向を踏まえて検討がされている。 入学試験制度の変更状況について、2017年度入試から外国人留学生入学試験及び難民入試を導入、また、自己推薦入試において、現象数理学科が出願資格の変更を行った。なお、入学者の追跡調査については、組織としてはこれを行っていない。	留学生入試を新規に導入した。カリキュラムと連動して試験制度を検討し、学生を受け入れた。		入試委員会及び学科会議において、定期的に入学試験の検証を行う。		

2016年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

基準 6 学生支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(1) 学生支援に関する方針を定め、学生への修学支援は適切に行われているか						
a ●修学支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約200字】	常設委員会として修学支援を取り扱う学生支援委員会を設置している。 2013年に開設、カリキュラムも学年進行に伴い整備されてきたことから、完成年度となる2016年度までは、学生の修学状況を確認しながら支援を検討してきた。					
b ●方針に沿って、修学支援のための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しているか。 ○留年者、休退学者の状況把握と対応 ○障がいのある学生に対する対応 ○外国人留学生に対する対応 ○学生支援の適切性の確認 【約400字～800字程度】	2016年度の「原級者」は48人（前年度28人）、「休学者」は31人（前年度10人）、「退学者」は11人（前年度4人）である。2016年度入学者の入学後一年以内退学率は1.3%であり、2015年度と同じ割合である。学籍異動については、その理由と合わせて毎月教授会で報告している。 休退学者等、学籍異動が生じる学生に対して、手続については中野教務事務室の学籍担当者が、学業に関わる事項については学科教員が、学生生活全般事項において必要があれば学生相談室が本人と面談を行っている。 また、単位修得不足学生等については、機会を設けて修学指導を行っている。具体的には、取得単位数及び修得科目を根拠に基準を定め、該当する学生に対して、次学期の授業開始前までに教員が面談等を行い、修学指導記録として対応内容を記している。 2017年の4月には、原級者のうち、既に修業年限を満たした在籍原級生については、ガイダンスを実施するとともに、卒業希望時期の確認を書面で行った。					

2016年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

基準6 学生支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
	障がいのある学生に対する修学支援制度については、全学の取り組みを適用している。					
	外国人留学生入学試験を2017年度から導入し、3名が入学した。留学生入試の導入と合わせて留学生対応カリキュラムについても検討を行い、日本語科目の開講を決定した。					
	修学指導において面談を実施した学生の修学状況を各学科で共有するとともに、修学指導方針の確認を学生支援委員会内で行うことで、学生支援の適切性を確認している。 オリエンテーション行事として、1年生と学科教員の懇談会を学食を利用して学科別に開催している。					

2016年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

基準6 学生支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(2) 進路支援に関する方針を定め、学生への支援は適切に行われているか。						
a ●進路支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約200字】	総合数理学部では、就職キャリア委員会を常設委員会として設置している。2016年度は4回にわたり委員会を開催し、学生の進路動向を確認しながら進路支援方針を策定した。就職キャリア委員会における審議内容は、教授会において報告することで、教員間で共有を図っている。なお、本学部は2017年3月に初めての卒業生を輩出した。					
b ◎学生の進路選択に関わるガイダンスを実施するほか、キャリアセンター等の設置、キャリア形成支援教育の実施等、組織的・体系的な指導・助言に必要な体制を整備していること。 【約400字～800字】	進路支援活動の方針や意思決定は、就職キャリア委員会が中心となり学部として行う一方で、実施については、全学組織の就職キャリア支援センターと連携してこれを行っている。就職キャリア委員会の運営に中野教育研究支援事務室員が加わり、全学で実施している支援行事や進路調査の実施、その結果を情報共有するなど、効果的な連携がはかられている。 2016年度は、4年生に対する内定状況調査の実施や3年生に対する就職・進路ガイダンスの実施等について検討した他、企業向けリーフレットを作成し、学部の教育研究について周知することにも努めた。 [学部主催によるガイダンス等] 1年生：総合ガイダンス内での説明（4月） 2年生：学科ガイダンス内での説明（4月） 3年生：学科ガイダンス内での説明（4月）進路ガイダンス（2月）	就職キャリア委員会の事務局として、就職キャリア支援担当職員が出席していることから、学部と全学の双方の状況共有がしやすく、効果的な連携がはかられている。		就職キャリア委員会を中心に、継続してガイダンスや支援行事を行うとともに、学生のニーズにあった支援を検討する。		

2016年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

基準6 学生支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
	<p>キャリア支援活動については、総合教育科目である「学部間共通総合講座（産学連携型アカデミック・インターンシップ）」の科目コーディネーターを就職キャリア委員が務め、ガイダンス等を通じて履修を促している。それ以外にも、「コンテンツ・エンタテインメント産業論」や「フィールドスタディ」、「ネットワークデザイン特別講義A」等、実務家経験を有する教員による授業や企業見学を含む授業を設置し、職業観の涵養を図っている。</p>					
	<p>2016年度は、キャリア教育に関する満足度の調査を実施していない。2015年度に実施した「明治大学における学びに関するアンケート」では、問28及び29において、進みたい方向を決めている割合、さらには行動している割合は、それぞれ58%、62%である。行動の具体例としては、希望する進路に備えた自習が28%と最も高かった。</p>					

2016年度 総合数理学部 自己点検・評価報告書

基準10 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか						
a ◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること。 【約400字】	総合数理学部における自己点検・評価は、学部内に設置された自己点検・自己評価委員会によって行われている。学部長、学科長、大学院委員の計6名によって構成している。メンバーには、なお、自己点検・評価報告書の具体的記述については、点検・評価項目に関係の深い学内委員会委員長とも連携し、これを作成している。 2016年度は「2015年度総合数理学部自己点検・評価報告書」を作成した。報告書は2016年10月13日開催の教授会審議に付し、その後全学の手続きを経て、明治大学ホームページで公開している。					
(2) 内部質保証システムに関するシステムを整備し、適切に機能させているか						
a ●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織（評価結果を改善）を整備していること ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること	総合数理学部の内部質保証の基本方針は、「自己点検・自己評価委員会」を責任主体とし、同委員会は評価結果を学部長に報告するものとしている。					
●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること	2015年度の報告書では、「完成年度を迎えることによる将来構想の見直し」「大学院先端数理学部研究科との一体的な運営」「教員組織の整備」について、取り組みが必要であるとのことになった。「完成年度を迎えることによる将来構想の見直し」について、2016年度は、将来構想委員会において議論をするとともに、新学科及びイングリッシュ・トラックコースについて検討を開始した。また、「大学院先端数理学部研究科との一体的な運営」について、2017年度から、執行部編成等をはじめ、運営を一体化した。	全学科に接続する専攻が開設したことにより、大学院との一体化を考慮した委員会編成を行った。これにより、情報共有や意思決定の効率化の観点で改善が見られた。		重点的に改善事項に取り組む他、IRデータの活用を行う委員会等の設置を検討する。		
●学外者の意見を取り入れていること	学外者の意見の取り入れについて、外部の方の意見を聴取し検討する仕組みは設けていない。					